

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名		ナンバリング		区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅳ		NSP23_002		必修	1	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
坂本 文子 他		418	fumiko.sakamoto		月曜日～金曜日 12：10～13：00		
授 業 の 目 的 ・ 概 要		看護援助方法Ⅳでは、看護の機能する医療の場における診察・検査及び診断・治療に伴う援助について、援助を実施するうえで必要な理論・知識・技術をもとに、看護師の役割と、診察・検査及び診断・治療に伴う看護援助の基礎的援助技術を看護の視点から対象の病の回復と治療効果について理解することを目的とする。診察・検査及び診断・治療について既習の知識をもとに確認し、これらの内容に伴う基礎的看護援助に関連づけながら具体的な援助方法について知識の裏づけにもとづきながら演習での主体的な学びを通して修得する。					
授 業 形 式 ・ 方 法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業 (双方向型) ☐ 遠隔授業 (自主学习)	☒ 講義 ☐ 実習	☒ 演習 ☐ 実技	☐ PBL ☒ グループワーク ☐ その他 ()	☐ 反転授業 ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク	☐ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク
学 習 上 の 助 言		1.医療の場における診察・検査及び診断・治療に伴う援助は、人体構造機能学、薬理学、病理学、疾病治療論の知識が必要になるため、これらの知識の復習をして授業に臨んでほしい。 2.不明点や疑問点はそのまませず、自分で調べる教員への質問等をする等で解決してほしい。 3.技術演習は動画視聴や自己練習による技術習得と手順作成による安全・安楽に実施する技術を身に着けるよう努力してほしい。					
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ /著:有田清子 他 /医学書院 /2021					
参 考 書		看護技術が見えるvol.①基礎看護技術 /編:医療情報研究所 /メディックメディア /2018					
外 部 教 材		動画教材など、授業時に提示する。					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	診断・検査・治療における看護の重要性について説明できる。					NS(1)(3)	
②	診断・検査時の看護の役割について説明できる。					NS(1)(3)	
③	看護技術の根拠・方法を手順書として作成し、実施後の評価をもとに修正できる。					NS(1)(3)	
④	看護の安全・安楽を踏まえた診断・検査・治療時の基礎的看護技術を実施できる。					NS(1)(3)	
⑤	実施した看護技術を患者（患者役学生）の反応から評価し、自己の取り組み課題を記述できる。					NS(1)(2)(4)(5)	
⑥	患者役の体験を通して、援助を受ける対象の気持ちを述べることができる。					,NS(1)～(4)	
授 業 計 画							
回	学習内容等			授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	診断・検査・処置における技術（採血・与薬）			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
2	診断・検査・処置における技術（採血・与薬）			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
3 4	診断・検査・処置における技術（採血）			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
5 6 7	与薬の技術（筋肉注射）			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	3	
8	排泄の技術、救急救命処置技術、止血に関連した技術、呼吸援助技術			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
9	排泄の技術、救急救命処置技術、止血に関連した技術、呼吸援助技術			講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
10 11 12	排泄の技術（一時的導尿）			演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	3	
13 14	救急救命処置技術（BLS）、包帯法			講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
15	呼吸援助技術（酸素吸入、吸入療法、吸引）			講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
試	筆記試験、技術試験						

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

総合評価割合（％）		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
総合力指標	知識・技術力	50	30	0	0	20	100
	思考・推論・創造する力	50	10	0	0	20	80
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取り組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。 ・形式は、記述式、選択式の混合である。				試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①	✓	単元ごとに提示する学習課題（課題レポート等）に取り組み提出する。当該課題の提出状況と内容により評価する。				提出されたレポートにコメントを付して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	演習で学習した援助技術の知識・技術力を技術試験により評価する。				試験結果を提示し、不合格者には個別指導を行い、技術を修得するよう指導する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	窪川理英、小石川好美、他						
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は、看護師として 15 年の臨床経験、看護教員として 20 年以上の経験を持つ。						
実 践 的 授 業 の 内 容	すべての看護技術は目的と根拠、患者への影響を踏まえて行うこと、そのための知識と技術の習得状況を確認しながら授業を進める。演習では患者役看護師役とで実施後の振り返りを丁寧に行い、技術の習熟に活かすことを大事にする。						
そ の 他	学習状況によりスケジュールを変更することがある。変更する場合は Teams や授業内で知らせる。今後の状況など社会情勢によって、シラバスの変更を行う可能性がある。						